

Title	名鉄病院泌尿器科における5年間の手術統計
Author(s)	伊藤, 浩一; 岡村, 菊夫
Citation	泌尿器科紀要 (1985), 31(8): 1421-1426
Issue Date	1985-08
URL	http://hdl.handle.net/2433/118571
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

名鉄病院泌尿器科における5年間の手術統計

公立陶生病院泌尿器科

伊藤 浩 一

名鉄病院泌尿器科

岡村 菊 夫

FIVE-YEAR CLINICAL STATISTICS ON OPERATIONS
AT OUR DEPARTMENT

Koh-ichi ITOH

From the Department of Urology, Tosei Public Hospital

Kikuo OKAMURA

From the Department of Urology, Meitetsu Hospital

A five-year statistical observation was made on operations and patients examined and treated surgically at our Department. Methods and numbers of operations are shown and discussed briefly.

The total number of operations was 967, and the male/female ratio was 7.0 : 1. The most frequent operation was TUR-P (114, 11.8%) and the second was TUR-Bt (89, 2.2%).

Key words: Clinical statistics, Urologic operation

1979年4月から1984年3月までの5年間の、名鉄病院泌尿器科における手術統計を報告する。

名鉄病院は、名古屋市の北西部に位置し、病床数360の中規模の総合病院である。鉄道を中心に交通の便がよいことから、診療圏は広く、名古屋市および愛知県北西部、さらに岐阜県・三重県の一部におよぶ。当院に泌尿器科が開設されたのは1968年1月であるが、

常勤医が在籍したのは1972年7月から1975年3月までと、1979年以降である。

年度別の手術件数および麻酔方法 (Table 1)

5年間の手術件数は967件で、年平均193.4件となった。各年度ごとにみて、さほど大きな変動はないが、近郊の病院に泌尿器科の開設が続いたこともあり、年

Table 1. 年度別の手術件数および麻酔方法

年 度	'79	'80	'81	'82	'83	計
手術総数	165	223	195	211	173	967
男	133	189	177	187	160	846
女	32	34	18	24	13	121
全身麻酔*	51*	74	57	65	57	304*
硬膜外麻酔			11	36	20	67
腰椎麻酔**	81	101	89	94	65	430
局所麻酔***	33	48	38	16	31	166

* Ketalar 麻酔: 1を含む

** saddle block を含む

*** 尿道麻酔を含む

間の手術件数はやや頭打ちの傾向にある。

性比は、男：846、女：121で、男女比は7.0：1である。

麻酔方法は、saddle block を含めた腰椎麻酔がもっとも多く430件と44.5%を占め、全身麻酔が304件、31.5%とこれについだ。1981年4月以降は、おもにTUR-P に硬膜外麻酔を用いている。

年齢分布 (Table 2)

967 件のすべての手術に関して、患者の年齢分布を Table 2 に示す。10 歳未満では先天奇形が多く、30 歳代、40 歳代では尿路結石の手術が比較的多かった。また、50 歳代以上では腫瘍の手術が多数を占めた。

腎および尿管の手術 (Table 3)

腎摘出術は、腎尿管全摘術 1 例を含め、13 例に施行した。うちわけは、腎細胞癌：5、腎盂腫瘍：3、腎

結石：3、水腎症：1、膿腎症：1 である。腎細胞癌は男：3 (右：2、左：1)、女：2 (右：1、左：1) であった。この 5 例のうち、1 例は術後 9 月で癌死、1 例は 2 年 4 月後 alive with tumor、3 例は not evident disease である (1984 年 3 月末現在 3 年 6 月、2 年 4 月、2 月経過)。また、腎盂腫瘍の 3 例はすべて not evident disease である (2 年、11 月、1 月)。なお、腎盂腫瘍例のうちには、腎結石にて腎部分切除術を予定して手術を施行したところ、腎盂内に腫を発見して腎摘出術に変更した。15 歳男子の 1 例がある。

腎結石に対しては、腎摘出術：3、腎切石術：10、腎盂切石術：24 をおこなった。腎摘出術施行例は、男：1 (右：1)、女：2 (右：1、左：1)、腎切石術は男 9 (右：6、左：3)、女：1 (左：1)、腎盂切石術は男 19 (右：9、左：10)、女：5 (右：3、左：2) である。

Table 2. 年 齢 分 布

性別 年度 年齢	男						女						計
	'79	'80	'81	'82	'83	計	'79	'80	'81	'82	'83	計	
～ 9	27	27	21	22	21	118				1		1	119
10～19	7	10	15	12	18	62		1		1		2	64
20～29	8	16	8	7	11	50	5	1	1	2	1	10	60
30～39	12	24	17	8	7	68	2	4		3	2	11	79
40～49	10	19	14	10	16	69	4	6	3	2	4	19	88
50～59	8	21	26	33	22	110	11	5	1	2	1	20	130
60～69	21	27	40	40	26	154	7	9	3	9	2	30	184
70～79	33	37	34	50	28	182	2	5	8	3	1	19	201
80～	7	8	2	5	11	33	1	3	2	1	2	9	42
計	133	189	177	187	160	846	32	34	18	24	13	121	967

Table 3. 腎、尿管の手術

手術 性別 年度	男						女						計
	'79	'80	'81	'82	'83	計	'79	'80	'81	'82	'83	計	
腎摘出術			1	3	2	8	1		2		2	5	13
腎切石術			3		3	9		1				1	10
腎盂切石術		3	5	3	4	19		2	1		2	5	24
腎盂形成術		2	2	2	1	10						2	12
その他		2	1	1		5			2	1		3	8
小計	7	12	9	10	13	51	1	5	5	1	4	16	67
尿管切石術	8	9	7	11	8	43	5	3	1	4	4	17	60
尿管膀胱新吻合術	2	1		4		7	3	1		2	1	7	14
尿管瘻術	1	2	1	3		7	4	2	1	1		8	15
その他				2		2		3				3	5
小計	11	12	8	20	8	59	12	9	2	7	5	35	94

腎盂形成術は12例に施行した。術式はすべて Anderson-Hynes に準じた dismembered pyeloplasty である。1例の下大静脈後尿管例(男, 42歳)を除くと, 全例が腎盂尿管移行部狭窄症例である。男子9例はすべて左側で, 9歳以下の小児例が5である。女子2例は, とともに右側であった。

尿管切石術を60例に施行した。男:43(右:19, 左:24), 女:17(右:7, 左:10)であった。1例に Gil-Vernet 法をおこなった。

尿管膀胱新吻合術は14例に施行した。2例の尿管狭窄, 1例の尿管腔瘻を除くと, すべて VUR の症例である。VUR 例は, 男:6(両側:4, 右:2), 女:5(両側:2, 右:1, 左:2)であり, 男は9歳以下:4, 10歳代:2であるのに対し, 女は20歳代:3, 50歳代:2であった。術式は, 当初 Politano-Leadbetter に準じておこなっていたが, 1982年7月からは両側性の症例に Kondo, Otani らの cross-over 法を用いて, 良好な結果を得ている。

膀胱の手術 (Table 4)

膀胱腫瘍の患者は, 男:63, 女:24の87名で, これらに対し, 経尿道的生検を除いて168回の手術をおこなった。これらの多くは TUR, TUE の経尿道的手術である。部分切除術は10例(男:8, 女:2)に, 膀胱全摘術は14例(男:10, 女:4)におこなった。87例のうち, 死亡例は12(男:6, 女:6)で, うち9例は根治手術不能例の癌死である。全摘術後の死亡例は3であり, うち1例は急性腎不全にて術後10日で死亡, また2例がおのおの術後2年6月, 4月で癌死している。病理組織学的には, 83例が移行上皮癌および乳頭腫であり, いっぽう尿管管由来と考えられる腺癌が3例(男:2, とともに全摘術施行, 女:1, 部分切除術施行), また malignant mixed mesodermal tumor (男, 全摘術施行)が1例あった。これら4例は, いずれも1984年3月末現在 not evident disease である。

膀胱結石に対しては, 36人に38回の手術を施行した。術式は, 高位切開:5, 経尿道的碎石術:33であ

Table 4. 膀胱の手術

手術	性別		男					女					計		
	年度		'79	'80	'81	'82	'83	計	'79	'80	'81	'82		'83	計
生 検				6	2	1	4	13	1	4				5	18
TUE			2	8	5	5	5	25	3	4	2	2		11	36
TUR *			8 *	11	12	16	24	71	6	3	4	3	2	18	89
膀胱部分切除術				3	1	2	2	8		2				2	10
膀胱全摘術				3	3		4	10	1			3		4	14
Formalin 固定術			1	2		2		5	2		1	1		4	9
経尿道的碎石術			5	7	8	4	2	26	1	3	1	1	1	7	33
膀胱高位切開術			2		1	1	3	7	1			1		2	9
その他			1	2	2	2	5	12	1		1			2	14
計			19	42	34	33	49	177	16	16	9	11	3	55	232

*TUR-Bn 1を含む

Table 5. 前立腺の手術

手術	年度	'79	'80	'81	'82	'83	計
生 検		11	11	14	10	7	53
前立腺凍結術		20	15	2	3	1	41
TUR		9	13	28	46	18	114
恥骨後式前立腺摘出術		4	3	7	2	3	19
恥骨上式前立腺摘出術				9	2		11
前立腺全摘術					1		1
計		44	42	60	64	29	239

Table 6. 尿道, 陰茎, 陰囊内容の手術

性別	手術	年度					計
		'79	'80	'81	'82	'83	
男	尿道形成術		1		3	1	5
	尿道下裂手術	1		2		2	5
	陰茎切断術		1	1	2		4
	環状切除術	7	22	10	1	13	53
	背面切開術	9	14	7	9	8	47
	睾丸固定術	10	13	11	12	12	58
	陰嚢水腫根治術	8	3	7	5	9	32
	精液嚢摘出術	1	1	3	3	1	9
	睾丸生検		1	1	1	3	6
	除睾術・去勢術	8	9	6	9	7	39
	副睾丸摘出術	1	1	1	2		5
	精管結紮術	5	8	6		1	20
	その他	1	4	3	5	1	14
小計		51	78	58	52	58	297
女	カルンクルス切除術		3	2	1		6
	その他				1		1
	小計		3	2	2		7

る。また、男：28、女：8であった。高位切開をおこなったうちには、360 g の巨大結石の1例と、10歳の小児例がある（ともに男）。また、経尿道的手術例のうち11例には超音波碎石術を施行した。

前立腺の手術 (Table 5)

前立腺肥大症および前立腺癌に対しては、当初凍結術をおもにおこなっていたが、1981年4月以降は、これを poor risk の患者に限定したために激減し、以後は TUR 施行例が増加した。前立腺全摘術は、扁平上皮癌の1例に施行したのみであるが、8月で癌死した。前立腺癌症例は、先の1例を含めて28例である。このうち癌死が確認されているのは9例であるが、腺癌8例中6例の診断確定後の平均生存期間は1年6月であった。

尿道, 陰茎, 陰囊内容の手術 (Table 6)

尿道形成術は5例に施行、このうち4例は Kissing Bougies 法、1例に端々吻合をおこなった。

尿道カルンクルスには6例に切除術を施行、うち2例に YAG レーザーを用いた。

陰茎切断術は、陰茎癌の4例に施行した。うち3例

は partial amputation であり、1例は外陰部全摘に近い手術となった。前者の1例が術後6月で癌死しているが、他の3例は not evident disease である（2年、1年11月、1年11月）。この4例以外に、peplomycin と radiation のみで現在 not evident disease の1例がある。

睾丸固定術は58例に施行、うち停留睾丸に対しておこなったのが54例で、右：20、左：24、両側：10であった。精索軸捻転に対しては3例におこなったが、いずれも左側であった。

陰嚢水腫には、Winkelmann 法を施行したもの、Bergmann 法を施行したものがあり一定しないが、右：13、左：14、両側：5であった。

去勢術および除睾術は、あわせて39例に施行した。われわれは、前立腺癌症例に対して全例に去勢術をおこなっているが、観察期間中の去勢術施行例は22であった。1側の除睾術は、睾丸腫瘍：6（悪性リンパ腫で、後日対側にも除睾をおこなった1例を含む）、精索軸捻転：4、副睾丸炎：4などに施行し、結核症例はなかった。なお、睾丸腫瘍症例は、悪性リンパ腫例が2年11月にて癌死しているが、他の4例は not evident disease である（2年11月、2年6月、2年

Table 7. 尿路結石手術患者の年齢分布

性別 部位 年齢	男				女				計
	腎	尿管	膀胱	計	腎	尿管	膀胱	計	
10～14			1	1					1
15～19	1	3		4		1		1	5
20～24		1	1	2		2		2	4
25～29	1	4	1	6		2		2	8
30～34	4	3		7	1	2	1	4	11
35～39	3	4		7	2	1		3	10
40～44	2	6	1	9		1	1	2	11
45～49	7	7	2	16	3	3	2	8	24
50～54	6	8	3	17	2	3	1	6	23
55～59	1	1	1	3		2		2	5
60～64	1	4	4	9			1	1	10
65～69	1	2	3	6			1	1	7
70～74			6	6			1	1	7
75～79			2	2					2
80～			3	3					3
計	29	43	28	100	8	17	8	33	133

Table 8. 尿路性器腫瘍手術患者の年齢分布

性別 部位 年齡	男							女				計	
	腎細胞癌	腎盂・尿管腫瘍	膀胱腫瘍	前立腺癌	前立腺肥大症	陰莖癌	睾丸腫瘍	計	腎細胞癌	腎盂・尿管腫瘍	膀胱腫瘍		計
15～19	1							1				1	
20～24													
25～29													
30～34		2				2	4					4	
35～39		2				1	3		1	1		4	
40～44		6					6					6	
45～49		5	1				6		2	2		8	
50～54		8	8	1	1	18						18	
55～59		4	3	12	1	20			2	2		22	
60～64		8	1	17	1	27			6	6		33	
65～69	1	1	6	3	39	1	51	1	3	4		55	
70～74	1	1	14	14	41	1	72	1	7	8		80	
75～79	1	5	4	31			41					41	
80～84		2	3	13			18		3	3		21	
85～		1	2				3	1		1		4	
計	3	3	63	28	164	4	5	270	2	1	24	27	297

5月, 1年8月)。

その他の手術

後腹膜リンパ廓清術を, 膀胱および前立腺全摘術のさい同時に施行した15例を除いて, 4例に施行した。うち3例は睾丸腫瘍症例に, また1例は陰茎癌症例におこなったものである。

後腹膜腫瘍摘出術を3回施行した。Malignant Schwannoma 1例と同一症例の再発に対し, また尿路上皮癌の広範な後腹膜浸潤に対して施行した。

尿路変向手術

尿路変向術は, 33例におこなった。腎瘻: 4, 尿管瘻: 17, 回腸導管: 11, 膀胱瘻: 1である。膀胱全摘症例については, 尿管瘻: 3, 回腸導管: 11であった。基礎疾患はすべて悪性腫瘍で, 尿管腫瘍: 1, 膀胱腫瘍: 20, 前立腺癌: 3, 陰茎癌: 1, 子宮癌: 8である。従来 emergency operation としては, 尿管瘻術を施行することが多かったが, 今後は経皮的腎瘻術が増加するものと思われる。

尿路結石および尿路性器腫瘍患者の年齢分布 (Table 7, 8)

尿路結石および尿路性器腫瘍手術症例の年齢分布を Table 7, 8 に示す。同一疾患で複数の手術をおこなった症例については, 第1回手術施行時の年齢で表示した。

尿路結石に関しては, いずれの部位においても男子が70%以上を占めていた(腎: 78.3%, 尿管: 71.7%, 膀胱: 77.8%)。また, 上部尿路においては45~54歳の手術施行例が多いいっぽう, 膀胱においては60歳以上の男子が多かった。

腎細胞癌は, 全例が65歳以上であった。尿路上皮癌は, 男子が72.5%を占め, 結石に合併した15歳の腎盂腫瘍例を除くと, すべて30歳以上で, 40歳代から漸増し, 70~74歳に発生の peak をみた。前立腺癌症例はすべて55歳以上であり, これも70~74歳にもっとも多かった。病理組織学的に前立腺肥大症と診断されたもっとも若い症例は46歳であった。睾丸腫瘍は, 30歳代: 3, 50歳代: 2であったが, 後者の1例は, 比較的

高齢者に多いとされる悪性リンパ腫症例であった。

結 語

1979年4月から1984年3月までに, 名鉄病院泌尿器科にて施行された手術に関して統計的観察をおこなった。

1. この間の手術総数は967, 各年度とも約200件で, 年度間に大きな差はみられなかった。

2. 男女比は, 男: 846 (87.5%), 女: 121 (12.5%) であった。

3. 部位別にみると, 腎: 67 (6.9%), 尿管: 94 (9.7%), 膀胱: 232 (24.0%), 前立腺: 239 (24.7%), 尿道, 陰茎, 陰囊内容: 304 (31.4%), その他: 31 (3.2%) であった。

4. もっとも多くおこなわれた手術は TUR-P の 114 (11.8%) であり, ついで TUR-Bt: 88 (9.2%), 尿管切石術: 60 (6.2%), 睾丸固定術: 58 (6.0%) であった。

文 献

- 岡村菊夫・伊藤浩一・下地敏雄・鈴木靖夫・早瀬喜正: 後下大静脈尿管の1例. 日泌尿会誌 72: 1516, 1981
- Kondo A and Otani T: Ureteral crossover method for bilateral antireflux operation. Modification of Cohen technique. Urol 20: 234, 1982
- 岡村菊夫・伊藤浩一・鈴木靖夫・下地敏雄: 膀胱バイオペシーの5年間の成績. 日泌尿会誌 74: 1264, 1983
- 伊藤浩一・岡村菊夫・印牧直人・下地敏雄: Uremia を生じた巨大膀胱結石の1例. 日泌尿会誌 75: 347, 1984
- 岡村菊夫・伊藤浩一・佐橋正文・下地敏雄: 原発性前立腺扁平上皮癌の1例. 日泌尿会誌 75: 979, 1984
- 伊藤浩一・岡村菊夫・下地敏雄・鈴木靖夫・早瀬喜正・笈 英雄: 睾丸細網肉腫の1例. 日泌尿会誌 72: 1512, 1981

(1984年12月10日受付)